

**東北地方太平洋沖地震 第8報**  
**国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン****「こどもひろば」で子どもケア、おとなのためにも**

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

子どもたちのための民間の国際援助団体セーブ・ザ・チルドレンは、東北地方太平洋沖地震と津波の被害を受けた子どもたちが、一日も早く日常の感覚を取り戻せるように「こどもひろば」を開設し子どものケアの支援をしています。

地震発生から3週間が経とうとしている現在、約300名の子どもたちが命を落とし、約1,000人がいまだ行方不明です(文部科学省発表)。セーブ・ザ・チルドレンではおよそ74,000人の子どもたちが避難生活を余儀なくされていると考えます。多くの子どもたちは、今回の災害によって家族や友人、家や大切にしていたおもちゃなどすべて奪われ、慣れない避難所での生活を余儀なくされています。

セーブ・ザ・チルドレンは、地震発生から5日後の16日、最初の「こどもひろば」を仙台市若林区に開設して以来、これまでに延べ16か所で「こどもひろば」を展開しています。こどもひろばの開設は、セーブ・ザ・チルドレンのスタッフによる現地調査と並行して行われます。スタッフはまず、市役所の福祉課を訪れ、避難所の状況、避難者数、子どもの数などの情報を収集した後、各避難所をひとつずつ訪ねて回ります。避難所では、本部や学校の先生に子どもたちの状況とニーズを伺い、「こどもひろば」の意義と目的をご理解いただいたうえで、設置スペースをいただきます。多くの避難所で、子どもたちのケアを懸念しているものの、まだそこまで行き届いていないという声を聞きます。「こどもひろば」は子どもたちのケアだけでなく、大人たちにとっても、子どもたちが安心して遊べる場所があることで、被災後の生計再建に専念する時間が作れるという点で大きな助けとなっています。

また、セーブ・ザ・チルドレンではこれまでの緊急支援の実績から、こうした災害時において、大人はどのように子どもたちに接したらよいかをまとめたガイドを作成しています。\*別途添付  
避難所のおとなや、今後被災した子どもと接する機会のある大人にむけても、こうしたガイドを提供することで支援を続けていきます。



釜石市内の避難所になっている小学校で

## ■「こどもひろば」概要

被災した子どもたちのために、避難所などに設置する安心・安全な空間。セーブ・ザ・チルドレンはこの「こどもひろば」(英語表記・Child Friendly Space)を世界中の紛争や災害などの緊急支援現場で実施しています。

「こどもひろば」で行う活動は、粘土やお絵かき、ボール遊び、トランプなど子どもたちが被災前の日常生活で行っていた活動です。これらの遊びや活動を通じて、子どもたちが同年代と交流し、自分を表現することで、子どもらしくいられる時間を取り戻し、被災による影響から立ち直るのをサポートします。

同時に、保護者に対しても被災が子どもに与える影響など情報を提供します。また、子どもが「こどもひろば」に参加することは、保護者が生活再建に向け必要な準備や手続きをする時間をもてることにもつながります。なお、この運営はトレーニングを受けたセーブ・ザ・チルドレンのスタッフやボランティアが担い、被災した子どもたちに寄り添います。

## ■現在の実施状況 ※2011年3月30日時点

### 【実施場所】 延べ16か所

宮城県内避難所8カ所／

仙台市内3カ所(既に閉鎖)、石巻市内3カ所、東松島市内2カ所、

岩手県内避難所8カ所／

山田町内2カ所、釜石市内3カ所、陸前高田市内3カ所

### 【実施時間】

午前10:00～11:30／10:30～12:00、午後14:00～16:00(1時間半～2時間)

\*場所によって午前もしくは、午後のみ開催

### 【対象者】

4歳～14歳くらい

\*参加にあたっては、保護者の承諾を得て登録が必要

### 【内容】

- 1、はじめに  
自己紹介、今日の流れ
- 2、アクティビティ  
※子どもたちと相談して決定  
折り紙、お絵描き、粘土、ボール遊び、  
工作、など
- 3、おわりに  
今日の振り返り、次回の日程確認



### 【運営体制】

「こどもひろば」運営責任者1名

「こどもひろば」ボランティア1名以上